

下野市立石橋小学校

1 学校課題

自分の考えをもち意欲的に学習に取り組む児童の育成
～対話的な学びを通した深い学びの実現をめざして～

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

本校では、昨年度から、国語を研究教科として進めている。事前授業の段階から、ブロックの枠を超えて、主体的に意見を出し合い授業を練り上げ、自主的に協力し研修を進める体制の中で、新学習指導要領のめざす方向性や、国語科の「読むこと」の構造と系統についての共通理解が進んだことは成果といえる。一方、児童の実態としては、前学年までの学習内容の定着を確認しながら授業を進めているため、単元の中心的な言語活動にたどりつくまでに時間を要することも多くある。そこで、本年度も、国語科を中心とした研究を基盤として、その他の教科を含む日頃の授業を充実させ、職員自身が協働的な学び合いを展開できるよう授業研究を推進してきた。

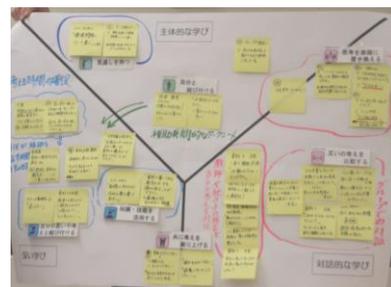
(2) 研究の仮説

児童が興味関心をもてる言語活動を設定し、その単元の中で、話し合う必然性や必要感をもたせる場の工夫を図ることで、児童が自分の考えをもって意欲的に学習に取り組むことができるであろう。

3 研究内容

(1) 研究の方法

- ① 説明的文章を中心に学校課題追究のため、授業改善の視点を絞って研究に取り組む。
- ② 低学年・中学年・高学年の3つの部会を設け、児童の発達の段階に応じた授業実践を行う。
- ③ 昨年度末の学力調査、とちぎっ子学習状況調査の調査問題の分析を実施し、学年ごとの課題を設定する。
- ④ 共有された授業改善の視点を基に、教師一人一人が日々の授業の質を高めるために、各自が、自主的公開も含め、研究授業を年間1回公開する。
- ⑤
 - ・外部講師を招く授業は、ブロックでの指導案検討や学年で事前授業を行い、授業研究会の質を高める。
 - ・S&Uコラボ事業を活用し、外部指導者の指導を受ける。
 - ・授業後の協議は、児童の学びを「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点で観察・分類する方法で行い、三つの視点に対する素養を高める。小集団での自由に話し合える雰囲気作りを心掛け、発表形式で全体で意見を共有する。



(2) 研究授業を通した主題への取組

日時	形態	学年	単元名	課題追究のための手立て等
11/11 11/17	自主公開 S&U事業	3年	国語「すがたをかえる大豆」	・児童同士の対話と、教師による対話のコーディネート。 ・語意を確かめる場面でのICT活用。
12/10 12/15	自主公開 S&U事業	5年	国語「固有種が教えてくれること」	・自己内対話の時間を確保した上での、グループでの対話。 ・学習への必要感を持たせる教科横断的な単元構成。

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ① 昨年度末の学力調査、本年度のとちぎっ子学習状況調査の分析を基に、授業提案ができた。「つまずき」の原因を考察し、単元構成の見直しに生かした。言語活動の設定においては、総合的な学習の時間と国語科の授業を結び付けるなど、児童が目的意識を明確にして、学習に取り組めるよう工夫をした。その結果、単元の終末に向け、見通しを持って学習に取り組む姿が見られた。また、できるようになったことを実感している発言や、学習事項と自分の思いや考えを結び付ける発言が増えた。さらに、今後の課題に気付き、振り返りカードに次へつながらる記述をする姿が見られるようになってきた。今後も学習に向かう意欲を向上させていきたい。



- ② 「一人一授業」の共通実践の下、互いに日々の授業に課題意識を持って取り組み、多くの授業を参観し研修できた。研究の単元を学年で統一したことで、単元の内容や時間のまとまりの中で指導内容のつながりを意識しながら見直しを進めることができた。また、新型コロナウイルス感染症の流行により低学年のS&U事業が中止になってしまったが、低学年部会が中・高学年部会に参加できたことにより、互いの学年や単元の系統性等の理解が進んだ。

- ③ 「一人一授業」を自主公開授業として、月曜日と水曜日の5時間目に位置付け、事前に周知することで全職員がブロックの枠を超えて、授業を参観することができた。本年度は「読むこと」の説明的文章を中心に授業研究を進めたので、自主公開の時期が重なり時間調整が難しい部分もあったが、全学年の授業を見渡せたことは、自分の学年で何が大切なのかを再確認することができ、授業改善を進める上で大変意味があった。また、「一人一授業」では、特に対話の充実を意識した授業づくりを行った。児童が興味関心をもてる言語活動を設定することで、互いの考えを比較したり、共に考えを創り出したりする姿が見られた。協働して課題を解決しようとする姿が育ってきた。



- ④ 昨年度に引き続き、学力向上推進リーダーからの助言をもとに授業のゴール（目標を達成した子供の姿）を具体的にイメージし、授業の組立を考えたことで、めあてと振り返りに一貫性をもたせられるようになってきた。



(2) 研究の課題

- ① 「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」を実現した子供の姿を見取る授業研究会を目指したが、指標が曖昧で見取ることが難しかった。子供の学びの姿をよりイメージしながら授業づくりができるよう、指標を明確にしておく必要がある。
- ② 自主公開授業の時期に読む単元が重なり、日程の調整が難しかった。また、学年・ブロックを越えて授業研究を進められたことは時期の調整も含め、自主公開の持ち方を検討していきたい。